

【「習う」から「学ぶ」へ】

これから10年先の社会を生き抜いていくための必要な資質・能力については、この場で何回も説明してきました。10年後の社会には、多様な社会環境とそれに伴う多様な価値が存在しているはずです。そのような多様性社会の中で出会う様々な問題には、これまでの知識や手法では対応しきれないものも増えてくるはずです。問題解決のために、自分で考え判断し、行動できる「たくましい実力」が必要となってきます。

金津中学校では、新学習指導要領に基づいた新しい授業を進めています。そのキーワードが「習う」から「学ぶ」です。これまでの授業では、教師は教科書に書かれている内容について、どのように指導するかに注力しがちでした。しかしこれからの授業における教師の役割は、まずは授業でどのような力をつけるのかをはっきりさせること、次に生徒のやる気をどう高めるかということ、そして実際に生徒自身が主体的に問題解決に取り組んでいるかということについて、生徒が学ぶ側面から支えることだと考えます。教え方が上手な教師ではなく、生徒をやる気にさせる、上手にサポートする教師が必要なのです。

生徒を主語にして考えると、教師から「習う」という受け身のスタイルから、自ら「学ぶ」という主体的な学びにしていきたいのです。

その手立ての一つとして、校内テストの前には、生徒同士で学び合う「質問会」の機会を設けました。また3年生の受験対策としておこなってきた「補充学習」については、これまで一律的に参加を義務付けてきたことをやめ、「ステップアップスタディー」と名付け、質問や分からない問題がある生徒が残り、教師や友達に教えてもらうスタイルにしています。

また、そもそも学校という施設は、勉強しやすい環境であることが一番大事な要素です。職員室前の廊下には質問する際に利用できる「スタンディングテーブル」をいくつか設置しました。今後は、この場所を「アップアップコーナー（デスク）」として、生徒が質問をする場に位置づけ、状況をみながら机やイスなどをさらに充実させていきたいと思えます。

今年度の全国学力学習状況調査から見てきた本校の生徒たちの学力については、国語と数学のすべての問題において、全国平均を大きく上回っています。この高い学力を持った生徒集団を基盤に、「学校は自ら学ぶ場所」という校風を作り上げたいと思うのです。

ちなみに先日のお昼休みには、すべての机が埋まるほど生徒が質問に来ていました。こんな生徒たちが集う学校っていいなぁとつくづく思います。

